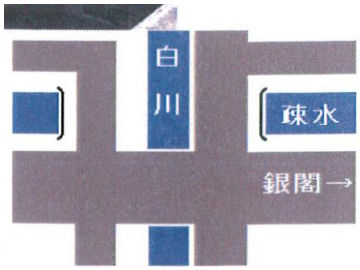
別紙　　琵琶湖疏水分線と白川の交差部についての考察

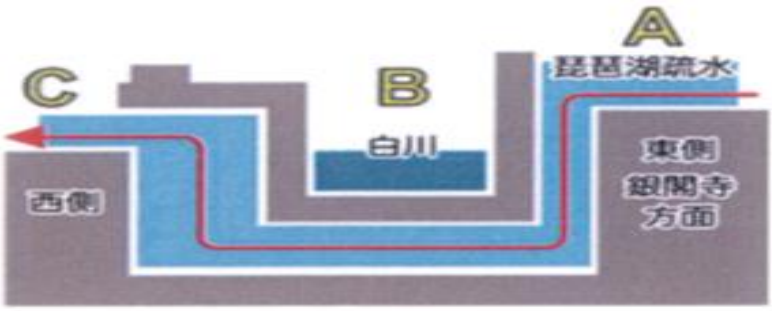
琵琶湖疏水分線は明治 23 年に竣工しました。河川法が後の明治２９年公布されましたので多分国有財産法による、水路の占用・工作物の新築の許可を受けて建設されたものと推察されます。

当時の白川流域は山林と田畑で、洪水時の流量も少なかつたので、白川の上部を樋越で渡していましたが、近年になって住宅が立ち並び流出量が増加したため，その樋越が白川の洪水量流下に支障となったので白川の改修で現在の「伏越し」で改修したものと思います。

「伏越し」（逆サイホン型）とは、用水、排水施設である開渠が、河川と交差する場合に逆サイホン構造の伏越しで河底を通過する水路のことです。

その構造は、





流下条件は　①　逆サイホン部は満水である。

②　Ａの水面高さ－（Ｃの水面高さ＋伏越しの摩擦損失等）が０より大きい場合に水が流れます。